

出題分析		
試験時間 60分	配点 150点	大問数 5題
分量 (昨年比較) [減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/>	難易度変化 (昨年比較) [易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化 <input type="checkbox"/>	
<p>【概評】</p> <p>例年通り大問5つで構成され、設問数も昨年と変わらなかった。時代については、昨年と同じく古代史の出題が多く、戦後史も出題された。また、一昨年と同じく中世・近世イギリス史が出題された。地域については、昨年に続いてインド史と中国史が扱われた点特徴的だった。分野については、今年も主に政治史の内容が問われ、一部に文化史の出題もみられた。出題形式は、例年通り大半が誤文選択問題であった。明らかに誤文であると判断できる選択肢が多かったため、全体的な難易度は昨年並みといえる。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	古代ギリシア史	②：d. クレイステネスは血縁ではなく地縁にもとづく部族制に改め、貴族勢力に打撃を与えた。 ④：c. アレクサンドロス大王はバビロンで急死した。この知識がなくても消去法で解答できる。 ⑥：b. 実証的叙述による『歴史』を著したのはトゥキディデス。ヘシオドスは叙事詩人で、『神統記』などが代表作。	やや易
II	中世・近世イギリス史	ロ：b. やや細かい知識が必要。ピューリタン革命後、兄であるチャールズ2世もフランスに亡命していた。①：c. 軍役から解放された騎士層が地方地主化してジェントリとなり、彼らは下院で大きな勢力を築いた。③：d. 普通選挙による共和政を唱えた水平派は、独立派に弾圧されて衰退した。⑥：c. 選択肢a・b・dの内容はやや細かいが、いずれも正しい。cが明らかに誤りであるため、正答だと判断できる。	標準

III	ソ連史	①：c. 武器貸与法によってソ連へ物資援助を行ったのはアメリカ合衆国。④：dの内容を知らなくても、aが明らかに誤りであるため、正答だと判断できる。⑤：d. 部分的核実験禁止条約 (PTBT) が正しい。⑥：bとcの判断で迷った受験生が多かっただろう。b. ベルリンの現状維持協定は、1971年に米・ソ・英・仏で結ばれた。c. 当時は共産主義のアフガニスタン人民民主党が政権を握っていたため、「反ソ政権」が誤り。	標準
IV	中国史 (明～清)	②：b. エセンが正しい。アルタン＝ハーンはモンゴル (韃靼) の指導者。④：b. 円明園の設計に携わったのはカステリオーネ。アダム＝シャールは徐光啓とともに『崇禎曆書』の作成などに従事した。⑤：d. 順治帝の時代に北京に遷都した。やや細かい知識だが、北京遷都以前はヌルハチが瀋陽を都に定め、ホンタイジがこの地を盛京と改称したことも覚えておきたい。	標準
V	インド史 (ヴェルダナ朝まで)	①：d. インダス文明は青銅器文明であり、鉄器の使用が確認されているのはヴェーダ時代以降。②：c. シク教を創始したのはナーナク。また、カビールについては、昨年の関西学院大入試世界史 (2/2 実施) の大問IVでも問われている。④：b・c. マウリヤ朝の支配領域はインド南端部やスリランカまでおよばなかったが、アショーカ王時代の布教活動によってスリランカで上座部仏教が盛んになったとされている。	標準

合格のための学習法

関西学院大学の誤文選択問題は、史実として誤っている選択肢の内容が比較的易しく、史実として正しい選択肢の内容は詳細な知識が求められるのが、例年の傾向として特徴的である。誤文である選択肢を素早く見抜きつつ、消去法でも解答できるようにする必要がある。そのため、日頃から用語集や資料集を活用し、細かな用語や事象にも注意を払いながら学習しなければならない。また、今年も古代史や戦後史から出題されたため、特定の時代に偏ることなく満遍なく学習しておきたい。加えて、今年にかけて頻出であった古代ギリシア史の出題が復活したほか、前近代の中国史は4年連続で出題されている。過去問演習を通じて万全の対策をしておきたい。